



進路講演会

先月16日に、本校恒例の保護者による進路講演会がありました。本校生徒のための講演を快諾して下さったのは、当日の講演順に安里繁信氏、崎浜靖氏、上江洲ジョアナかおる氏の3名です。

講演内容として、毎年お願いしていることは以下のようになっています。

- ①現在のご職業のやりがいは何か
- ②この職業の大変なところは何か
- ③コミュニケーションに必要なものは何か

さらに学生時代の進路選択から現在の職業に至った経緯(体験談)をまじえたお話は、示唆に富む内容でした。

講師の方3名のお話から、生徒のみでなく職員も多くのことを学びました。講演後、すぐに書いてもらった感想には、心に残ったことばが正確に記されており、「これほど人の言葉に影響を受けるとは自分でも思ってもみなかった」と書いた生徒もいました。講演を聞いて帰ってから、「家でもこの話ばかりをしていましたよ」と保護者面談でも話題になりました。あらためて保護者3名の講師に感謝いたします。また、いずれかの機会に講演をしてもよいとアンケートにお答え下さった保護者の方にもお礼を申し上げます。

なお、生徒のための講演でしたが、当日ビデオ録画した内容は、7月11日(土)の本校オープンスクールで、ご覧いただけるようになっております。ぜひお越しになり、共有していただければ幸いです。



国語の学習について

☆国語の学習で身につけるべき力は

論理的思考力・語彙力・情緒力 と言われています。

◇ 論理的思考力

- ・相手にわかりやすく伝えるためには、どのように表現したらよいかを考える力
- ・相手を納得させるためには、どのようなデータを用意し、理由付けすればよいかを考える力

◇ 情緒力

- ・他人の痛みを自分の痛みとして感じる心、美的感性、もののあわれ、懐かしさ、家族愛、郷土愛、日本の文化・伝統・自然を愛する祖国愛、名誉や恥といった社会的・文化的な価値にかかわる感性・情緒を自らのものとして受け止め、理解できる力

◇ 語彙力

- ・言葉の意味を知り、使いこなす力

では、どうするか。

①漢字・語句…ただ書いて覚えるのではなく、関連づけたものをまとめながら覚える！！

- ・漢字…**同じ部首のものや、類義語・対義語**などを調べ、一緒に覚えていきましょう。
- ・語句…意味を調べるだけでなく、辞書で例文も読み、どう使うかを考えましょう。こちらも**類義語・対義語**などとセットで覚えましょう。古文単語も、形容動詞「あはれなり」感動詞「あはれ」動詞「あはれがる」など同じ語から別の品詞になったものや、**類義語・対義語**などとセットで覚えましょう。漢文句形も同様で、同じような意味のものを合わせて覚えましょう。

②文章読解…ただ読むのではなく、頭を使い、形に残す！！

- ・読書をするときには、**気になる言葉をチェック**したり、**書き出し**したりして、残しておきましょう。分からない時には**調べ**ましょう。自分の感じたこと、考えたことまで記録しておくことで**情緒力・論理的思考力**にまでつながります。
- ・問題を解くときには、**問題文の大切**なところや、**本文中の大切**なところ、**答えに関係**の**ありそう**なところを**チェック**しておきましょう。
- ・何度も**音読**してみましょう(特に古典)。教科書で学習した単語が試験に出た場合、その文章の中でどのように使われていた

かまで思い出せるぐらい読み込みましょう。

・読んだ文章の内容を人に話したり、重要な部分だけを中心に書き換えたり(要約)してみよう。筆者がどう話を進めようとしているのかが意識でき、論理的思考力の強化につながります。

③表現…意見+理由！！

自分の考えたことを相手にどう伝えるかを考えましょう。基本は自分の意見に対して理由をはっきり述べられるようにすることです。問題を解いて答えを作ったら、なぜその答えになったか言えるようにすることです。

これらを、読書したり、新聞を読んだり、問題を解いたり、授業の予習・復習をしたりしながら日常的に繰り返していけば、力をつきます。逆に「なんとなく」やっていると何も力つきません。「なんとなく」からは今すぐ卒業しよう！！

さて、6月号で触れた小論文テーマ『国際社会』について今月から具体的に考えてみましょう。予告したテーマは以下の通りでした。

テーマ1

異文化って本当に理解しあえるの？

日本にいても外国の存在を身近に感じる場面は多い。たとえば、近年では外国の音楽や食べ物などが手軽に楽しめるようになり、日本を訪れる外国人旅行者も年間600万人を超えるまでになっている。また、留学や旅行で海外に行く日本人も多い。2011年には約1700万人が海外に出かけており、修学旅行で海外に行く高校生は約11万にも及ぶ。このように、私たちが日常的に異文化と接する機会はとて多くなっているのだ。

だが、異なる国の文化や風習の中には、自分の常識では理解が難しいものもある。例えば、日本ではクジラは古くから食料とされてきたが、欧米では捕鯨に対して『知的な動物を殺すのは許せない』と批判的な意見をもつ人も多い。国境を越えた人や物、情報のやり取りが盛んになるほど、異文化に触れて戸惑う場面も増えてくると考えられる。

長い伝統や歴史の下に形作られた文化や価値観は、国によって優劣をつけられるものではない。今後もグローバル化が進む中で、私たちは異なる文化や価値観は、国によって優劣をつけられるものではない。今後もグローバル化が進む中で、私たちは異なる文化や価値観とどのように共存していくのかを考えなければならない。



小論文入試では、次のように出題される！

外国の文化や風習について書かれた文章を読んで、自分が育った文化や習慣と大きく異なるものと出合ったとき、自分はどうか対応するかを述べる。

自分の考えを深めていきましょう。グローバル化が叫ばれる中、上記のテーマ内に見る「国際理解」について考えてみましょう。外国語の力は必要だけれど言葉が通じればすべて理解できるわけではないということ、そして自分は「何を発信する人になれるか」ということが問われます。知識を得て「学ぶ」、その後は自分で「考える」人になりたいものです。



夏休みに入る前の7月16日(木)には、高校1年生から3年生まで進研模試があります。模擬試験後の振り返りをしっかりとやること、反復くりかえしを着実にすることで、弱点・苦手克服につなげましょう。

次号掲載予定

1. 理科の勉強法

2. 小論文課題「情報社会」

